

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H06884

研究課題名(和文) インドにおける大学入学者選抜制度の研究 - 全国統一型試験の動向に着目して

研究課題名(英文) A Study on the University Admission Systems in India: Focusing on the Trend of Common Entrance Examinations

研究代表者

奥原 雅幸(渡辺雅幸)(Okuhara, Masayuki)

京都大学・地域連携教育研究推進ユニット・特定講師

研究者番号：00780909

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、主として近年インドで盛んである連邦政府の主導による全国統一型試験の導入に着目することで、インドにおける大学入学者選抜制度の特質を明らかにすることを目的とした。検討の結果、近年のインドの大学入学者選抜制度の特質としては、少なくとも工学・医学系のような専門分野の入試動向に限って言えば、わが国を含めた東アジア諸国のように多様な選抜方法を認める動向にあるというよりは、均質な質の担保や公正性という観点から、相対的に画一的な(統制された)入試に重点が置かれていることにインドの特質があると言える。

研究成果の概要(英文)：This purpose of study was to clarify the features of the university admission systems in India, focusing on the introduction of common entrance tests led by the federal government in recent years. Recently, East Asia including Japan trends to diversify methods of the admission. On the other hand, India has introduced common entrance tests in professional fields, of engineering and medicine, because the federal government aims to ensure the fairness and the minimum quality of the admission.

研究分野：比較教育学

キーワード：インド 高等教育 大学入学者選抜制度 入試改革

1. 研究開始当初の背景

高等教育の拡大に伴う学生の多様化や、一方でグローバル化に伴う優秀な人材の確保の必要性という背景のもと、各国において大学入学者をどのように選抜するかは重要な課題となっている。わが国では2014年の中央教育審議会の答申などでも謳われているように、高大接続という文脈のなかで、大学入学者選抜制度の改革に関心が高まっている。

本研究が対象とするインドもその著しい経済成長に伴って高等教育が急速に拡大しており、2013-14年度で学生数は約2,300万人にまで達している。こうしたなか、近年インドの大学入学者選抜制度に関わる最も注目すべき動向の一つが、「one nation, one examination」のかけ声のもと、連邦政府が主導する形で全国統一型試験の導入が盛んなことである。たとえば、インド最難関校であり世界的にも有名である「インド工科大学(以下 IIT と略)」は、国内にある複数校の「共通入学試験(以下 JEE と略)」をこれまで独自におこなってきたが、2014年からJEEは連邦政府主導で他の工学系の大学と合同の全国統一型試験に組み込まれるようになった。一方でこうした動向は、インド同様に受験競争が激しいとされる東アジア地域の動向のみならず、これまでのインド国内的な動向とも異なる。近年の東アジア地域の動向としては、相対的に画一的な(統制された)大学入学者選抜制度から、多様な選抜方法を認める大学入学者選抜制度へと移行しつつあると言われる。またこれまでのインド国内の動向として、連邦政府は、大学の運営自主権を尊重してきたと言われている。したがって、こうした全国統一型試験の導入というインドの大学入学者選抜制度の変化は、多様な選抜方法へと向かう東アジア地域の動向のみならず、大学自治が尊重されてきたと言われるこれまでのインド国内の動向とも非常に異なったものと捉えることができる。

しかしこうした大きな変化にもかかわらず、インドの大学入学者選抜制度に関しては、国内外を問わず先行研究が非常に少ないのが現状である。わが国では、弘中(1986)がインドの大学入学者選抜における1980年代までの歴史的な変遷について、また柳井(1996)が1990年代における各大学の個別試験について明らかにしてきた。国外では、Agarwal(2009)がインドでは大学の自律性が高いという背景のもと、収入獲得のため、個別の大学入学試験が盛んであることが明らかにされている。しかし近年の全国統一型試験の動向については明らかにされていない。それに対して筆者は、インドの大学入学者選抜制度について、2000年代に後期中等教育修了試験(その合格は一般的な大学入学資格を兼ねる)をめくって、その負担軽減や、学校での評価を導入するなどの議論や改革については明らかにすることはできたものの、全

国統一型試験導入の動向についてはほとんど触れることができなかった。

他方で筆者は以前から、これまで主として「連邦制」という枠組みからインドの高等教育について研究を進めてきた。たとえば1990年代以降連邦政府は自らの権限の範囲内で、国立大学の増設や大学教員になるための資格制度を整備するなど、積極的に高等教育改革に取り組んでいること、またこれまで高等教育において対立的に捉えられてきた連邦と州の関係について、互いに協調的な側面があることなどを明らかにし、インド高等教育の全体像の解明に努めてきた。

本研究の特色・独創的な点は、次の3点にあると考える。まず第1に、インドにおける大学入学者選抜制度に関する研究が少ないなか、特にその現状を明らかにすることに特色がある。第2に、国レベルの制度だけでなく、個別機関の対応を視野に入れることで、国と大学の関係の変化などを通じて、制度の特徴を明らかにする点に特色がある。第3に、インドの新聞や雑誌を用いて改革を詳細に把握する一方で、日本語、英語を涉猟し、さらに現地での聞き取り調査の実施も加えることによって、多面的、総合的な考察をおこなおうとしている点も特色として挙げることができる。

本研究は、近年の顕著な経済成長やそれに伴う高等教育の拡大にもかかわらず、依然として国内では数少ないインド高等教育研究に新たな知見を加えるものとして意義があるものと考えられる。また、ますます関心が高まる大学入学者選抜制度については、従来その研究対象は欧米中心であり、近年では東アジアに関する優れた研究(南部、2016)が見られるものの、南アジアであるインドの研究はほとんどないに等しい状況である。したがって本研究で得られた知見は、大学入学者選抜制度に関わる日本の高等教育研究だけでなく、現在進行中の大学入学者選抜制度改革にも示唆を与えるものと考えられる。

【引用文献】

- インディレサン, P.V. 「世界水準のインド研究大学への展望」アルトバック, P.G./バラ, J. 編著(米澤彰純監訳) 『新興国家の世界水準大学戦略:世界水準をめざすアジア・中南米と日本』東信堂、2013年。
- 南部広孝 『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較-中国・台湾・韓国・日本-』東信堂、2016年。
- 弘中和彦 「インド-門戸開放(大学入学資格)制から選抜制へ-」中島直忠編 『世界の大学入試』時事通信社、1986年、527-549頁。
- 柳井晴夫 「インドの大学入試」 『大学入試フォーラム』19号、大学入試センター、1996年、55-63頁。
- Agarwal, P. *Indian Higher Education: Envisioning in the Future*, SAGE India, 2009.

2. 研究の目的

本研究は、主として近年インドで盛んである連邦政府の主導による全国統一型試験の導入に着目することで、インドにおける大学入学者選抜制度の特質を明らかにすることを目的とする。

この目的を達成するため、具体的には、次の3点について検討する。

(1) インドにおける高等教育制度の概要

インドにおける高等教育制度を整理するとともに、現在特に連邦政府主導で進められている高等教育改革の動向についてまとめる。

(2) インドにおける大学入学者選抜制度とその改革動向

改めて後期中等教育試験の改革について整理したうえで、工学系の全国統一型試験に加え、同様に全国統一型試験の導入が決まった医療系の試験についても、その導入までの経緯や内容などについて整理し、分析をおこなう。

(3) 個別機関・州の対応・取り組み

連邦政府の主導による全国統一型試験の導入に伴い、IIT はどのように対応したのか、またその際、連邦政府と大学の関係は対立的、妥協的、協調的だったのかなどについて分析する。また 全国統一型試験の導入に対する各州の反応についても同様に分析する。

3. 研究の方法

本研究は主として、文献資料の分析と個別機関に対する聞き取り調査によって進める計画である。わが国における先行研究がほとんどない状況で、特に全国統一型試験に関わるインドの大学入学者選抜制度に関する文献の収集と分析をおこない、その概要と特徴、改革動向を整理するとともに、個別機関を訪問し聞き取り調査をおこなうことによって、政府の政策への対応を検討する。そのうえで、そうして得られた全国統一型試験の動向に関する情報や知見をもとに、多様な選抜方法へと向かう東アジア地域の動向、ならびに大学自治が尊重されてきたと言われるこれまでのインド国内の動向との比較、検討をおこなうことで、インドにおける大学入学者選抜制度の特質を明らかにする。

具体的には、以下の3点をおこなう。

高等教育制度に関する文献資料の収集・分析

本研究全体の基礎的作業として、インドの高等教育制度に関して、最新の状況を把握するよう文献資料を収集し、分析をおこなう。インドの高等教育制度には様々な種類の機関が含まれる。本研究ではインドにおけるある一定の機関群(主として工学系、医療系)の大学入学者選抜制度を対象とするが、それ以外の機関の入学者選抜制度も視野に入れる

必要がある(たとえば人文系の高等教育機関では主として後期中等教育修了試験の合格あるいはその点数のみで合格が決定するため、大学による入学試験がない場合が多い)。したがって多様な高等教育機関の整理をおこない、本研究が対象とする入学者選抜制度が利用される高等教育機関全体のどこに、どのように位置づけられるのかを明確にする。

大学入学者選抜制度に関する文献資料の収集・分析

インドの大学入学資格でもある後期中等教育修了試験の動向については、これまで一定程度研究を進めているが、今回改めて最新の状況の把握のために文献資料の収集をおこなう。また後期中等教育修了試験の改革動向が、全国統一型試験の導入とどのようなつながりがあるのかについても分析をおこなう。さらに全国統一型試験について、IIT による JEE が全国統一型試験になった事例を中心に、その変更までの議論と実際の試験内容の変化などについて、関連法規や政策文書、新聞記事などを収集、整理し、検討をおこなう。

個別機関における聞き取り調査

今回の調査では、全国統一型試験の導入によって連邦政府と大学の関係がどのように変化しつつあるのかについての分析のためにも、全国統一型試験の改革やその同校の反応などについて、IIT 関係者にインタビューをおこなう。

4. 研究成果

本研究は、主として近年インドで盛んである連邦政府主導による全国統一型試験の導入に着目することで、インドにおける大学入学者選抜制度の特質を明らかにすることである。

2 年計画の研究計画の初年度にあたる平成 28 年度には、第一に、本研究全体の基礎的作業として、インドの高等教育制度に関して、最新の状況を把握するよう文献資料を収集し、分析をおこなった。第二に、インドの大学入学者選抜制度に関して、大学入学資格でもある第 12 学年の修了試験の動向や、主として工学系大学の入試の歴史的変遷および現行制度の文献の収集と分析をおこなった。これまでインドでは 2002 年から国立工科大学(National Institute of Technology、以下 NIT)を含めた主に国立の工学系大学を対象に「全インド工学系入学試験(All India Engineering Entrance Examination、以下 AIEEE)と呼ばれる全国統一型の入学試験が実施されてきたが、2010 年代以降、工学系大学における入学者選抜制度の改革に関わる政府の諮問委員会が開かれ、そして 2013 年からインドで入学が最も難しいと言われる IIT が実施してきた共通入学試験(Joint Entrance Examination、以下 IIT-JEE)を含めた工学系大学における新た

な入学者選抜制度である「共通入学試験(メイン)(Joint Entrance Examination(Main)、以下 JEE(Main))」および「共通入学試験(アドバンスト)(Joint Entrance Examination(Advanced)、以下 JEE(Advanced))」が開始されている。なお、第一、第二の文献資料の収集については、日本語・英語文献の収集をおこなった。第三に、個別機関における聞き取り調査を実施した。聞き取り調査については、平成 29 年 3 月にチェンナイを訪れ、関係者と意見交換をおこなった。平成 28 度の研究成果としては、「インドの工学系大学における入学者選抜制度の展開 -2010 年代以降の全国統一型試験の動向に着目して-」(『京都大学大学院教育学研究科紀要』第 63 号、2017 年、557-580 頁)において、工学系の大学を中心とした大学入学者選抜制度の歴史的な変遷や、近年の入試改革の具体的な経緯と内容などを明らかにした。まず、IIT および NIT を中心にインドの高等教育制度を簡単に整理した。IIT、NIT ともに歴史ある機関であり、現在では IIT をモデルとして NIT は「国家的重要機関」としてとてもよく似た構造をしており、そのどちらも基本的に他の大学に比べて高い自律性が確保されていると言えた。次に、インドにおける大学入学者選抜制度について整理した。一般的な大学・カレッジの入学資格となる第 12 学年修了試験については、実施が州単位なので、その実施機関によって多様な修了試験がおこなわれている。そのため連邦政府は 1980 年代から継続してその質の管理を目的とした機関の設置を目指しているが、依然として実現はしていない。一方で、工学系の大学の入学試験については、IIT-JEE は IIT が 1961 年から独自におこなってきた非常に歴史の古い試験であり、また AIEEE は NIT を含めた主に国立の工学系大学への入学のための全国統一型試験として 2002 年から開始された。そしてどちらも非常に倍率の高い難関試験として知られてきた。さらに、主として 2010 年代以降におこなわれてきた JEE 改革について検討してきた。2010 年代以降 MHRD は JEE を諮問するための委員会を設置し、IIT-JEE を含めた工学系大学のさらなる統一や、第 12 学年修了試験の重視など、さまざまな角度から抜本的な改革を求めた。そして、2012 年に開かれた第 44 回 IIT 協議会では、それらの提言に基づいた形で新たな試験制度を決定した。しかし、一部の IIT やその関係者の強い反対によってその内容はいくらか修正され、その結果 2013 年からは NIT をはじめとする国立の工学系大学のための JEE(Main)と、IIT が実施する JEE(Advanced)が実施されている。最後に、これまでの内容を整理しつつ、インドの工学系大学における入学者選抜制度について検討した。その結果、主として 2010 年代以降の工学系大学の全国統一型入学試験の動向に着目すると、インドの工学系大学における入学者選抜制度は、連邦政府(MHRD)

が諮問委員会を開き改革を主導する形でおこなわれ、そのすべてとは言えないものの、それでも IIT-JEE と AIEEE を統合すること、第 12 学年修了試験を重視すること、そして各州単位でおこなわれる第 12 学年修了試験の質のばらつきを解消することの 3 点に関して、変化があったとみなすことができた。高等教育をめぐる環境が劇的に変化するなかで、連邦政府は大学の資金と自由を確保し、大学はその自由をただ享受するという、悪い言葉で言えば、これまでのような相互に緊張感の欠ける関係であり続けることことはもはや難しくなっている。もちろんすべての大学に対してとは言えないが、時には互いにぶつかり合うことも含めて、政府は必要な改革を推進するためにも大学の自律性を認めることで、また大学は自らの自律性を維持するためにも改革の必要性を認めることで、積極的に関わり合う民主的な関係を築き、そうすることによって、時代の変化のなかで互いの利益を確保している側面もあるのではないかと考えた。こうした成果は、これまであまり着目されることのなかったインドにおける大学入学者選抜制度そのもののさらなる理解に加え、少なくとも工学系の大学入学者選抜制度の動向を検討する限り、インドでは中央主導で入試の質と公正さをめぐる議論と実際の改革が進んでいるという新たな知見を得ることができたという意味で、意義あるものと考えられる。

2 力年計画の研究計画の 2 年目にあたる平成 29 年度には、第一に、前年度に引き続きインドにおける大学入学者選抜制度改革の最新の動向を把握するよう文献資料を収集し、分析をおこなった。第二に、これまでの文献資料の収集・分析、ならびに聞き取り調査で得られた知見を整理し、全体的な考察を行った。具体的な成果としては、第一に、2016 年から本格的に始まった医学系の全国統一入試である NEET の展開を分析すると、今回の入試改革は、主として質の担保を念頭に、中央レベルで試験を完全に統一することに重点が置かれていることがわかった。第二に、前年度調査対象とした工学系大学の入試改革と比較すると、工学系が試験の公正さに関わる内容に重点が置かれたものであり、また中央・州各レベルで実施されているのに比べると、NEET がそれとは異なった動向であることもわかった。

こうしたことから、近年のインドの大学入学者選抜制度の特質としては、少なくとも工学・医学系のような専門分野の入試動向に限るが、他のアジア諸国のように多様な選抜方法を認める動向にあるというよりは、均一な質の担保や公正性という観点から、相対的に画一的な(統制された)入試に重点が置かれていることにインドの特徴があると言える。こうした成果は、これまであまり着目されることのなかったインドにおける大学入学者選抜制度のそのもののさらなる理解に加え、

現在わが国でも進行中の大学入学者選抜制度のあり方を考えるうえで示唆を与えるものとする。なお、研究成果の一部は、日本比較教育学会第53回大会において、「インドにおける全国統一型大学入学試験の展開-医学系統一入試(NEET)に着目して-」と題して発表をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

渡辺雅幸、インドの工学系大学における入学者選抜制度の展開 2010年代以降の全国統一型試験の動向に着目して、京都大学大学院教育学研究科紀要、査読有、第63号、2017、557-580

https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/219222/1/eda63_557.pdf

〔学会発表〕(計1件)

渡辺雅幸、インドにおける全国統一型大学入学試験の展開 - 医学系統一入試 (NEET) に着目して -、日本比較教育学会第53回大会、東京大学、2017年6月25日

〔図書〕(計2件)

渡辺雅幸、インドにおける国際バカロレアの展開、李霞編著『グローバル人材の育成と国際バカロレア アジア諸国のIB導入実態』東信堂、2018年、121-143頁。

〔その他〕(計1件)

渡辺雅幸、インドの大学院入学者選抜に関する規定、『後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究』(平成29~32年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(一般) 課題番号:17H02680)中間報告書 研究代表者:南部広孝)京都大学大学院教育学研究科、2018年、245-255頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:

権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

奥原 雅幸 (OKUHARA, Masayuki)

京都大学・地域連携教育研究推進ユニット・
特定講師

研究者番号: 00780909

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

()